



共同通信



2008年4月11日 140(350号)

日本基督教団 西宮公会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 40 『この4月から』

この4月から、新しい仕事をする
ことになりました。

神戸100年映画祭というNPO法人の事務局です。毎年秋に開催される映画祭を中心に、定期的な上映会を神戸市内の数カ所で行っています。ボランティアのスタッフが運営にあたりますが、年間50～60本の映画を上映するには、どうしても専任の職員が必要です。その事務局を引き継ぐことになりました。

神戸は日本の映画発祥の地。そこで、行政と市民が協力して、毎年「神戸国際映画祭」というものを開催してきました。震災後、神戸の文化復興の願いをこめて「神戸100年映画祭」が催されま

したが、神戸市の財政悪化のため、資金援助が大幅に削減されてしまいました。そこで、市民の力で開催するためにNPO法人を立ち上げたのが、7年前のことです。

現在、映画上映を目的としたNPOは全国にたくさんあります。有名なところでは、北海道夕張市の「ゆうばりファンタスティック映画祭」や山形県の「山形国際ドキュメンタリー映画祭」なども、NPOを立ち上げています。でも映画上映のNPOは、神戸が一番最初なのです。

前任の方からお誘いがあったのは、昨年の5月ごろ。そのときは、即座に断りました。新学年がスタートしたばかりで 1

すから、考えるまでもありません。大変だけれど面白そうな仕事なので、きっと誰かが引き受けるだろうと思ってました。ところが、秋になっても後任は決まっておらず、改めて事務局長からお話がありました。前任の事務局長は、長年上映会や映画祭に関わってこられた大ベテランです。還暦を迎えて、ご自身やご家族の事情もあり、第一線で動くのはきつくなってきたとのことでした。

NPOの会員は毎年増えていますし、映画祭も各上映会も楽しみにして下さる方が大勢いらっしゃいます。ボランティアスタッフの方たちも精力的に活動してくださっています。でも、中心軸になる事務局が機能しなければ、活動は続きません。実績もあり、信用もある状態で、ここでストップしてしまうのは、あまりに惜しいのです。正直、自分にできるのか不安はありましたが、好きで続けてきたことですし、やってみることにしました。

神戸100年映画祭という名称は、映画が発明されて100年という意味でつけられています。100年経った今、映画をとりまく状況は大きくかわりつつあります。映画のほとんどはビデオやDVDで手に入り、ホームシアターが普及している今、上映会をすることにどういう意味があるのだろうか？とずっと考えていました。

そんなとき、浜田寿美男先生の著書

『赤ずきんと新しい狼のいる世界』(洋泉社)を読みました。これは子どもとの生活について、いろいろ考えるヒントがたくさんある本です。幸せなことに、浜田先生の講演も聴くことができました。そのなかに、「100カ年計画」というものがありました。

哲学者の内山節さんが、群馬県の将来計画を考える委員会に参加されたときのことです。委員会では、地域の文化人や行政の関係者などと一緒に、群馬県の将来を考える「5カ年計画」や「10カ年計画」を策定しようとしていました。でも、5年や10年のスパンで考えると、「こういう施設をつくったら?」「こういうイベントをやったら?」という話になってしまいます。

そこで、「100カ年計画」だったらどうだろう。100年前と今の変化を考えると、100年後の予想はまったくできません。そうすると、100年先に向けて企画をたてるとか、建物をつくるなんて計画は考えようがない。そうになると、「何をつくったらいいか」ではなく「何を残したらいいか、残さなければならぬか」という発想になっていく。というのです。

浜田先生のお話をうかがって、「100年先に残したいもの」を映画祭にあてはめて考えてみました。そして、「人々が集う」ということは、100年先にも残したいことだと思いました。どれだけ

通信手段が発達しても、生身の人間が同じ場所に集う、ということは必要だと思ふのです。いろいろな考え方を持つ人々が集まって何かをするというのは、とても面倒なことです。でも、面倒だからといって無くしてしまうわけにはいきません。いろんな人が集まって、この世界はできているわけですから。私は映画が好きなので、映画で人が集まる場をつくる。そういう仕事をしていけたらいいなと思います。

共同幼稚園はとても楽しい所です。毎日こんなに心から笑顔でいられる場所は、ほかにはないと思います。たくさんの素敵な出会いに感謝しつつ、3月は私の卒園式でもあったのだなぁと感じています。もうすぐ入園式、いちごの花は咲いたかな?...きっと、この一年、私は共同の暦で生活していることでしょう。

(平岡 雅子)

日本基督教団西宮共同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮共同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮共同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮共同教会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読む会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮共同教会集会室

昨日輝 太陽を見た
そして木の葉が優しく舞っていた
わたしの冷たい手はぽかぽか暖めてくれるものを求めて
あなたのことを考えていた

今のわたしは自分を導いてくれる道標を探しているの
あなたは手を握ってくれるけれど
本当にわたしを必要としているのかしら？
そろそろ手放すべき時が来たよね
でもこの先もあなたのことを想っているわ

だからあなたが海原を渡って
向こう岸に無事に辿り着いたら
わたしのために少し微笑んでちょうだい
あなたのことを想っているから
あなたのことを想っているから
あなたのことを想っているから

(シンキング・アバウト・ユー / 尾・ジョーンズ)

ヨハネによる福音書9章には「生まれつきの盲人」が、「地につばきをし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた『シロアム(つかわされた者、の意)の池に行って洗いなさい』。そこで彼は行って洗った。そして見えるようになった」(6、7節)という、イエスによる奇跡のことが書かれています。盲人が見えるようになったことについて、当の本人は冷静に受け止めています。周囲の人たちはいろいろ納得しませんでした。まず、「・・・帰って行った。(故郷の)近所の人々」は、「彼がもと、こじきであったのを見知っていた人々は言った、『この人は、すわってこじきをしていた者ではないか』」(8節)と、盲人が見えるようになって、自力で故郷に帰ってきたことを驚くだけで

はなく、納得できないとあれこれ問いただします。「では、おまえの目はどうしてあいたのか」(10節)、「その人は(目が見えるようにした人は)どこにいるのか」(12節)、「人々は、もと盲人であったこの人を、パリサイ人たちのところへつれて行った」(13節)。そうして連れて行かれた先で、更にあれこれパリサイ人たちが問いただします。「どうして見えるようになったのか」(15節)。「その人は神からきた人ではない。安息日を守っていないのだから」「罪のある人が、どうしてそのようなしるしを行うことができようか」(16節)、「おまえの目をあけてくれたその人を、どう思うか」(17節)。「パリサイ人たち」という呼称が「ユダヤ人」に代わって、「目が見えるようになった人の両親を呼んで」「これが、

生まれつき盲人であったと、おまえたちの言っているむすこか。それではどうして、いま目が見えるのか」と、更に問いただします。問いただされて、両親が答える答え方は、とても他人行儀に聞こえます。盲人であったこじきを、自分たちの息子であることは認めますが、息子の目が見えるようになって帰ってきたことを、大いに喜んでいるようには見えません。「あれに聞いて下さい。あれはもうおとなですから、自分のことは自分で話せるでしょうから」(21節)。「あれはもうおとなですから」と、突き放すようにして答える、その息子は、生まれつきの盲人であった結果“こじき”をしていました。生まれ故郷の近所の人々も周知の事実として。“もうおとなですから”と、突き放してと言うほど立派に大人をしていた訳ではありません。生まれつきの盲人であったこの人に、生きのびる道があったとしてもこじきするくらいでした。故郷の人々にさげすまされ、両親・家族も生まれつきの盲人であるが故に遠ざけるという結果になっていました。

イエスの弟子たちが、道を通っていて「生まれつきの盲人」に出会った時の、彼らにとっての“盲人”は、その人の存在ではなくて宗教的理念の問題でした。「先生、この人が生まれつきの盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それとも両親ですか」(2節)と。その人の存在に寄り添う位置に立つなどは、思いもつかないことでした。イエスとの答えで、宗教理念に基づいて、生

まれつきの盲人を見つめるということはしません。逆に宗教的理念はきっぱりと否定・拒絶し、「神のみわざが彼の上に現れる」こととしてその人に寄り添い、イエスが触れたことによって生まれつきの盲人の目が見えるようになります。

おさまりのつかないユダヤ人たちは、再度盲人であった人と呼ばしめます。「神に栄光を帰するがよい。あの人を罪人であることは、わたしたちにはわかっている」と、それをしたのが“安息日”であったことが“罪”に値するとして譲りません。しかし、盲人であった人の答えは明解です。“あの人”(イエス)の働きで、その身に起こったことを素直に喜び、「わたしは盲人であったが、今は見える」と。そして、“安息日”にそれをしたことについても、「あのかたが罪びとであるかどうか、わたしは知りません」と言って退けます(23節)。ユダヤ人たちはおさまりがつかなくて、のしります。「おまえはあれの弟子だが、わたしたちはモーセの弟子だ。モーセが神に語られたということは知っている。だが、あの人どこからきた者が、わたしたちは知らぬ」(29節)。これに対する、盲人であった人の“反論”もとても明解です。「神は罪びとの言うことをお聞き入れになりませんが、神を敬い、そのみこころを行なう人の言うことは聞き入れてくださいます」(31節)は、都合よく自分に引き寄せて言っている訳ではありません。問いただすほどに、問うユダヤ人たちの側に自らほころびがあらわに 5

なってしまうという具合なのです。宗教的
理念をふりかざす時、それに生きた人の
言葉で返すことの方に、説得力がある
のです。

こうして、パリサイ人、ユダヤ人を描
く場合には、彼らの本音に迫り、生まれ
つきの盲人の場合には、彼の生きていた
現実をえぐってみせるのがヨハネによる
福音書です。しかし、そうして描く時に、
生まれつきの盲人が見えるようになった

“事実”をもとに、「わたしがこの世にき
たのはさばくためである」ということの
主張も忘れません。

(菅澤 邦明)

ゆっくりと聖書読んでみませんか

毎月第2火曜日午前10時から、場所は西宮公同教会集会室、参加費
100円です。5月は13日に行なわれます。

「ゆっくりと聖書を読んでみませんか」では、毎回、コーヒーとお菓子を楽しみなが
ら、のんびりした時間の中でお話を聞きます。ただ聖書の話を中心に聞くのではなく、
絵本、音楽、雑学などを豊富に交えた内容は、“聖書”から決して遠くないところで身
近な話題を皆さんと共にする、貴重な時間なのかもしれません。

参加者の皆さんの笑い声、驚きの声に子どもたちのさわぐ声があった、賑やかで
心温まる時間です。

「最後の公同通信」

い~ったり きた~り くりか
えす~ あたたかいひ さむいひ~

寒い日が続いたと思ったらポカポ
カと暖かい日が続いたり、津門川の
タンポポがおひさまに向かって花を
咲かせていたり、春を感じるそんな
日々を過ごした3月。半ばを過ぎる
と、いよいよ年長組のおともだちと
最後の時間を迎えることになりま

した。ステキな歌声を聞かせてくれ
た年長さん。その立派な姿から公同
幼稚園で過ごしたそれぞれの時間を
感じる事が出来ました。優しくて、
パワフルで、元気いっぱい年長さ
んはいつもみんなの憧れの的で、そ
んな姿をみて、さんぽさん、らったさ
ん、ぽっぽさんまでもが『ぼくも！』
『わたしも！』と様々なことに挑戦す
るようになりました。なんでも出来

てしまうかっこいい年長さんを時にはライバルとしてお互い刺激しながら過ごした日々を思いながら大切にその時間は過ぎていったのでした。

そして、最後にはサプライズプレゼントも登場！こどもたちの笑顔を見るため、そして、幼稚園の為にたくさんご協力してくださった母の会の役員のお母様方、そしておかあさんぐまの方々からの心のこもったスペシャルプレゼントには子ども達だけでなく私たち大人もびっくり、大感激のひと時でした。役員のお母様方からは一針一針愛情がこもった手作りの大きなタペストリーを。みんなが大好きな『ぐりとぐら』『11ぴきのねこ』『そらいろのたね』それにいつもそばを流れる『津門川とそのなかまたち』幼稚園で一番大きな木でいつもみんなを見守ってくれている『けやき』をイメージした5枚がクラスごとに贈られました。新学期にはちょっぴり姿を変えてクラスの部屋に登場しますのでお楽しみに
お母さんぐまのお母様方は特大のいちごケーキを手作りで作ってくださいました。数え切れないほどのいちごと、ケーキの上にそれぞれの『6』『5』『4』というろうそくが立てられ、またひとつ大きくなったお祝いの時間をみんなで持つことが出来ました。それぞれの時間が流れていて、見守ってくださる方が周りにはたく

さんいて、みんなで一緒に過ごすことが出来るそんな日々を幸せに思うと同時に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

2007年度卒園式は17日に、21日には2007年度終了の日を迎えました。両日ともに春を感じられるような暖かい一日になりました。年長組は小学校へ、たくさんの期待とともにちょっぴり寂しさを持ちながらの最後の時間はとても大切で、きらきらと輝くような時間を過ごすことができました。共同幼稚園を旅立つ年長組のおともだちを、それぞれの場所での新しい一歩をこれからもみんなでお支えています。

2007年度終了の日にはぼっぼさん、さんぼさん、らったさんは、新しい帽子を園長先生に被せてもらい、なんともいえない緊張した顔。そんな中で思わずこぼれおちる満面の笑みは何にも変えられない最高のプレゼントとして私の中に残りました。ぴかぴか帽子がみんな色にそまっていくな姿を想像しながら、これから始まる新しい一歩一歩がどうか皆にとってかけがえのないステキな日々になりますように。

きょうも きみにあえて うれしい
とてもすてきな あさだね おはよう～

『おはよう！』とみんなに出会えることが嬉しい！幸せな朝を毎日迎え

ることができました。両手を広げると飛び込んできてくれる子ども達のぬくもりを感じる時がなによりも愛おしくて大好きな時間でした。卒園して、ひとつまたひとつと大きくなっていく子ども達と教会学校でキャンプで一緒に過ごせる時間が大切でした。津門川の掃除をしながら地域の方々とお話するのが大好きでした。色々な形でたくさんの方と毎日出会い続けられたことを感謝しています。公同幼稚園で過ごした7年間は私に

とってこれ以上ない大きな宝物となり、これからの日々を支えまた導いてくれると感じています。本当に長い間ありがとうございました。

大好きな『公同』という場所をいつも想い、皆様の健康とこれからの日々が輝く毎日でありますように...いつも願っています。

(三谷 春名)

アコークロー通信 (1 2 0)

4月です。本土ではちょうど桜の季節でしょうか。沖縄の桜は1月頃なのでちょっと感覚が違います。中学校の入学式は夏服ですから、もう、ほとんど夏です。

その4月、選抜の甲子園、見事沖縄尚学高校が優勝しました。沖縄では号外が出るほどの大騒ぎです。9年前の選抜でも優勝し、そのときのピッチャ

ー、辺野古出身の比嘉君が今度は監督としてナインを率い、明德や天理、東洋大姫路を破り、決勝は9対0の完璧な試合でした。9年前の優勝の後、沖縄はサミットがやってきて、それでも基地や経済はグジャグジャでなんとなく閉塞感が漂っていました。教科書問題も少女暴行事件もなんとなくウヤムヤでこれらもみ

んなイマイチな感じでした。それらを吹き飛ばしてくれたなあ、という感じでした。ですから、普段はいがみ合っているものたちや口も聞かない人々も、とりあえずめでたいめでたいと喜んでいるのです。

ところで、沖縄中が喜んでいる中で言いづらいのですが、考えてみれば甲子園で優勝しても沖縄が置かれている課題は何一つ解決してはいないのです。一服の清涼剤ではあっても基地にしる教科書にしる経済にしる、そうなのです。ですから、めでたいめでたいと高校生に感動した大人が居酒屋で祝杯を上げているのではなく、その大人たちが高校生に何を提示するかが問われているのです。

4月、沖縄はうりずんの季節です。若夏（わかまつ）、日本語で言えば「初夏」なのですが、1年中緑のある沖縄でも、この季節は特別です。いろいろな緑色を感じる季節がこのときです。それで天気の良い日、沖縄本島北部をドライブしました。本部（もとぶ）半島には海洋博公園があるのですが、そこからもう少しだけ北側に行くと備瀬（びせ）という集落があります。その「ふく木並木」のある集落は文字通り心も体も洗われる気分です。同じ本部町には橋で渡れる「瀬底（せそこ）島」があるのですが、ここには土地の神を祀る「土帝君」というものがあります。沖縄本島中南部は沖縄戦で多くのものが灰燼に帰していますが、北部には琉球王府時代のものがいくつか見ることができます。

沖縄は、沖縄戦と米軍基地を引きずっているのは事実ですが、そのような沖縄の長い営みも人々の歴史を紡いでいるのです。ですから、基地問題に係わったからといって沖縄を理解したことにはならないのです。

先日、ある基地反対の運動家が沖縄を離れました。最先頭で闘っていた彼に何があったかわかりません。生まれ故郷の沖縄を離れなければならない出来事があったのでしょうか。でも、彼の「沖縄」は「基地反対闘争」だけで、人々の長い歴史や生活を理解していたかどうか危ぶんでいました。戦後63年にわたる沖縄の反基地運動が数年で解決できるなら苦労はありません。先に述べた甲子園で喜びを分かち合いながら歩いていかなければならないし、その沖縄には長い歴史と人々の暮らしがあるのです。

私も長い間、沖縄に青い海や青い空を見に来るだけではいけない、というようなことを言ってきました。でもそれによって傷ついた心や体が癒されるなら、それでも沖縄に来て欲しいと願っています。

新しい年度が始まり、いろいろと計画を立てていることでしょう。そのように歩まれることを心から望みます。

（沖縄・与那原・愛の園 後藤 聡）

聖書研究祈禱会

毎月第1、第3水曜日午後7時から、場所は西宮公会堂集会室です。5月は7日、21日になります。

聖書はキリスト教の神のことを、人の言葉で語ってみようとした試みです。

そんな試みで残された聖書言葉は、当然あれこれ難解だったり、神の前に立つことを拒む人というものに呆れ返ったり、生々しかったりしますが、“神の前に立つ一人として謙虚に生きる”ことと、その意味を、言葉を尽くして語ろうとします。じっくりと腰をすえて聖書を読むのが、西宮公会堂の聖書研究祈禱会です。

大切な贈り物・津門川 68

“3 / 17川そうじ”

あのね、日曜日におとうさんたちが、川をそうじしているんだけど、なんで、ごみが、川にすててあるのかな～と思いました。ぜったい、ごみばこに、すてるのがいやな人だと思いません。しかもこないだ、自てん車にのっている男の人がバナナを食べて、食べ終わった、川にすてていました。りくは、それを見て、あんなことしていいのかなぁと思いました。わたしは、心の中であんなとしたらあかんに～とおもいました。

そして、川そうじがはじまって、り来がハサミのよゆなみじかいやつをもって、草とかにひっかかっている、スーパーのふくろ、おかしのゴミとかを、ひろいます。

でも、先生たちは、「やめときゃ～」って言うねん。でもりくは、西野みやとか、いたみとかをきれいにしたいから、ゴミを、ひろっています。りくらがせんとうに、たってすすみます。そして、まああるところがあって、そこをのぞくと、コーヒーのあきかんや、タバコがすててあります。そこをりくは、とったりします。

そして、とれたら、ゴミぶくろに入れます。

たまに、手がすれることもあるけど、り来は、いたくありません。

そして、すすんで、また、なんかいもまああるところがあるけど、ぜんぶみて、ゴミを、とっていきます。たまに、川にはいつている、おとうさんたちが、かごをあげて～っていったとき、みみちゃんとかが、ロープを、おろして、かごをあげます。その時、りくもいっしょにあげることもあります。

そして、どんどんいって、川のはしっこに、ついたら、ゴールして、ようちえんにかえります。

そして、かえったら、お昼ごはんをよういをしてきているから、ほとんどの人が、かえってきたら、ごはんにします。ごはんは、自分できめれます。ジュースもあります。

そして、ごはんがきまったら、ごはんを、食べれます。たべおわたたら、ごみをすてて、おうちのひとがむかいにくるまで、あそべます。わたしは、おとうさんたちが、ほんとうにがんばっていると思います。りくらもがんばっているけど、おとうさんたちは、みずのなかだからやりにくいとおもいます。

(教会学校 3年 村崎梨来)(原文の通りに掲載させていただきました。)

川そうじのご案内

毎月第1日曜日（雨天の場合は翌週の日曜日）に津門川の川そうじを行っています。

参加する方は午後12時過ぎに幼稚園園庭に集まり、長靴をはいて川の中に入って掃除をするグループと、川沿いの道のゴミひろいをするグループに分かれて掃除を始めます。幼稚園前から南に下っていったあたりからスタートし、171号線にぶつかるまでが範囲です。掃除が終わったら幼稚園に戻り、簡単な昼食をみんなで食べて、川そうじスタンプカードのハンコを1個押して終了です。スタンプカードは、5つポイントがたまるとにじきた商店街で使える金券1000円と交換します。

次回の川そうじは5月4日です。

私の出会った人たち 5

この誌面で一年弱前にスタートしたのが「わたしの出会ったひとたち」のトップの「To tell the story」のように毎月のリレー連載のはずが、なかなか書き手に出会えない。トップもそうですが、もうひとつ津門川の項もなかなか四苦八苦しているのです。それで、しばらくはないと思っていたこの出会い~のページにとうとう出張ってくることになってしまいました。

幼稚園は3月に年度末を迎え、そしてまた新しい1年度の始まり、4月をスタートしようとしています。66人の卒園に70人の入園予定、別れと同時に多くの出会いがまた与えられています。年度の終りのまとめの会で「出会ったひとたちがすべて教科書」という話をしました。話は少し広がりますが、2月の末に「子育て支援」ということで話す機会を与えられました。好きなようにしゃべったうえにそれをリーフレットにしてくれるとのこと、テープ起こしがすぐに行われ少し手直しをして、わたしがこの稿を書き始めた3月26日には印刷が始まったのでした。その冊子の最後の紹介欄に一言と言われて「回り道して入った保育の世界、ついつい、とうとうここまで来てしまいました」というのを中に入れたのです。そうなのです。保母になろうと思っていた20歳ごろまでではなく、英語とか社会とかそういう方面を意識していたのが、まずは銀行員になって(札幌

定はしてません)、そして回り道の結果、保育園に勤めることになりました。都道府県ごとに国家試験が受験できる、大阪ボランティア協会で通信添削をしてくれる、これなら資格取得に取り組みめるだろうということで、申し込んだ通信教育。できないものです、月末に送付するのなんて。そしていつしか数ヶ月、その時の協会からの手紙のことは忘れられません。「忙しいことでしょう。いつになってもいいから期日を気にせずに答案ができたなら送ってください。」11月くらいに申し込んだ通信、先の手紙をもらったのが2月か3月、で、その手紙のおかげでその夏には全科目といかないながらも受験、一部科目合格を半分手にすることができたのです。大きな一歩でした。「ついつい、とうとう」と書いた保育の世界に入った道筋は、そういうことでした。

そうしてスタートした保母としての毎日、第一日目に「おしめの替え方を教える」ということで赤ちゃんをベッドに寝かせて、そしていざ脱がせたらその主任が電話で呼ばれ、自力でやろうと思ったら大便にあれこれ戸惑い、戻ってきたその主任からは「こどもを殺す気か」と怒鳴られました。お尻丸出し、夏ではないから心配されたのでしょうが、とんでもない第一日目でした。この保育園では絵本との出会いがありました。4年ほど前に新設された時に今江祥智さんがどっと寄贈されたとのこと、「とんでもない第

一日目」を体験するものの、実はその後をずっと支えてくれた「絵本」にこんな出会い方をするので、やっぱりいい人生だったとしみじみ思います。話が広がりましたが、そういう変則的なスタートをしたわけですから、その保育という仕事についていわゆる学校で学んだわけではありません。受験前に開催された講習会のテキストが長い間テキストらしいといえばその体裁をもったものでした。で、振り返ってみれば、とにかく「人」から学んだのです。すべて歌も手遊びも絵本を読むことも、おかあさんへの口調も。子どもたちと自然に輪になってお話を始めた先生を見た時は「いつかあんなふうに！」、固く決意しました。直接子どもに言うのではなく、子どもが子どもに～そういう姿勢も大きな学びでした。

それからどれだけの人たちに会ったのでしょうか。どれだけ盗ませてもらったかわかりません。与えられる、なんてことは絶対といっていいほどない時代、そして環境でした。今の公同にはここにいるだけで信じられないほどの出会いがあります。2005年夏は菅井啓之さんに誘われて滋賀のノートルダム学院の山の家で、2006年夏には浜田壽美男さんの美山の別荘で岡本夏木さんも迎えて2泊3日の研修、2007年春には服部祥子さんの鳥羽の別荘にご招待などと、実にありえないことが起こってきました。次はどんな？どこで？と聞かれるのは困るなというくらいの毎年の出会いです。

わたしの1970年代80年代つまり20代30代は、出会いを自ら求め続けた時間です。90年代はそれらを活かして少し飛躍を意識しました。もちろんひたすら意欲的に学び、今も「学び」の真っ最中。で、思ったのです、「出会った人たちすべてが教科書だった」と。そんな時にまたまたこのリレー連載に再三の穴があきそうと漏れ聞いて、「では、このわたしが」としゃしゃりでてきたという次第です。リレーが続かないのは気にはなりますが、休み休みでもいいのかもしれない、この共同通信、トップに津門川に出会いにと何とか次の号へというのはもちろん、そのことによって世界中(は、ちょいおおげさか)がつながればいいのになとの思いを大事に月一発行を懸命に維持し続けています。

この一年間完結ということばを何度か使いました。出会いという一つ一つの点、その出会いのたびにその物語にとりあえず区切りをつくること、それが大事と思っています。完全な終わりではないけれど、一つの区切りをもち、けじめをつけることです。そうして誠実に物事に向き合った時、必ず次の出会いが訪れるのです。 出会いに恵まれるのです。

ところでどれだけの人たちに「わたしの出会った人」の中に入れてもらっているのでしょうか。ふと、他人にとっての自分を今思っています。

(菅澤 順子)

グアテマラだより

3月の復活祭。ここ、グアテマラもカトリックの国なので祝日です。特に、私の住むアンティグアは大きな山車の行列などが出て、盛大な祭りなので、世界中から観光客がやってくるのです。40日前からクワレスマが始まり、週末ごとに小さなおみこしにマリア様が乗せられて街を歩いたりするようになり、3月になるとそれはもう、50人以上の人で担ぐ大きな台に十字架を背負ったイエス様や、涙を流すマリア様が楽団を引き連れ、数百メートルの列になって巡るのです。

通る道では、そこに面した家族が総出で花や木屑に色をつけたもので「花じゅうたん」というものを作って迎えます。もちろん、行列に踏まれ、ぐちゃぐちゃになるのですが、列の最後にはお掃除部隊もいて、すぐに片付けていきます。聖金曜の早朝、ローマ兵部隊が3時から、そしてイエス、マリア、マグダラのマリアの山車が5時にメルセー教会から出て行きます。そして正午から、十字架に磔られたイエス様を悼むミサが始まり、その像を丁寧に下ろして再び山車に乗せて廻ります。小さな町を約10時間くらいかけて、ゆっくり、香の煙のなか進みます。ものすごく重いので、65メートル位ごとに交代しますが、これは決まったお

布施を収めると、誰でも参加可能だそうです。

その行列、担ぐ人の服は紫の宗教服、それが聖金曜のイエス像を下ろしてからは、黒に変わります。その金曜を終えると、街はぐっと静かになり、土曜はマリア様だけ、日曜もひとつの行列が出てセマナサンタ（聖週間）が終わるのです。。。。

子どものときから日曜日にゆで卵を用意したりしてきた私には、この日曜のあっさりさに、違和感を感じてしまうのですが。。。

。。。。少し長いかもしれませんが、ごめんなさい。とにかくすごいイベントなので、書ききれないのですが。。この時期、ホテルも普段の3倍の値段になり、しかも4連泊しなければならないなど、相当強気な商売をします。それでも1年前から予約が入っているそうです。。。。

この山車を観に出かけて、初めてスリに遭ってしまいました。すごく気をつけてたのに。。。。気をつけて余りお財布にお金を入れてなかったのですが、かばんを切られてショック。。しかも買い物した、小さなしょうがなどは落ちてなかったのに、翌日、出かけるまで財布がないことに気づかなかった、オマヌケさんでした。。。。

（横山 佳代子）

2007年4月 あんなこと こんなこと...

- ・ 4月 1日(火) 午前6時30分～、早天祈祷会
- ・ 4月 1日(火)～2日(水) 淡路島ワークキャンプ
- ・ 4月 3日(木)～4日(金) 幼稚園研修会
- ・ 4月 5日(土) 午後2時～、谷口大樹記念会
- ・ 4月 7日(月) 幼稚園始園
- ・ 4月 7日(月) 午後2時～、教会学校教師会
- ・ 4月 8日(火) 午後6時～、野田正彰講演会
- ・ 4月 12日(土) 幼稚園入園式
- ・ 4月 15日(火) 午前10時～、ゆっくりと聖書を読んでもみませんか
- ・ 4月 29日(火) カレーパーティ

にしきた商店街...

- ・ 4月 6日(日) 津門川川掃除
- ・ 4月 6日(日) 商店街役員会
- ・ 4月 8日(火) 西北活性化連絡協議会
- ・ 4月 10日(木) にしきた寄席反省会
- ・ 4月 15日(火) にしきた街舞台実行委員会
- ・ 4月 21日(月) 商店街総会
- ・ 4月 23日(水) 西北街づくり協議会

アートガレージ

- ・ 毎週土曜日 15時～17時開室日
- ・ 4月 1日、15日(火) 丹波野菜市

関西神学塾

- ・ 4月 4日(金) 午後7時～9時 桑原重夫 使徒行伝を読んでもみよう(32)
- ・ 4月 11日(金) 午後7時～9時 勝村弘也 ヨブ記釈義(8)
- ・ 4月 18日(金) 午後7時～9時 田川建三 マルコ福音書註解(中)(48)

教会学校から

《3月の活動報告》

3月2日(日)

ケチャで遊ぶ

はっさく狩り&マーマレードを食べる

3月9日(日)

巨大ドッチビー大会

3月16日(日)

積み木で遊ぼう!

3月20日(木)

教会と子どもセミナー

3月23日(日)

イースター礼拝&

教会学校入学式

3月30日(日)

入学歓迎パーティ

《4月の活動予定》

4月6日(日)

高松公園で大なわ大会

4月13日(日)

サニーレタス、クレソンを食べよう!

4月20日(日)

Y字リリアンで遊ぶ

4月27日(日)

映画鑑賞会

5月4日(日)

いちご摘み

まいのなんでも案内

春です。というわけで初めましての方もいらっしゃるでしょうか。わたくし公同幼稚園・教会学校のOGで、今は京都で大学生をしております高橋舞と申します。毎月この欄で、何がしかのオススメを(思いつきとノリで)しております。何卒ご贖目に。いきなりですが、わたくし、新年度早々、風邪をひいたり自転車が撤去されたり某コンビニの抽選が外れてばかりだったり、と、運気が低迷中です。きっと今年度の悪い事はこれで終わって、あとは良い事だらけなんだと思います。皆さんもそうであるように祈っておいてください。

で、そんな運気低迷でも欠かせないことがひとつ。本屋通いです。先日友達と「週何日本屋行くか」という話をしていたのですが、考えてみたら、外出したら大抵用事がなくても本屋に寄るんです。だから週5日は確実。更に、コンビニの雑誌コーナーを含めると週6か7日です。何てこったい。「日課は本屋に行く事です」。真面目な文学部生っぽい!…見てるのが漫画コーナーばかりだということを書かなければ、ですけど。てわけで、良い年して週刊少年ジャンプを愛読してます。少年マンガは乙女の夢とロマンと言って聞きません。ちなみに今流行りの腐女子ではありません。そもそも「腐女子」なんて言葉、本当はあんな公

けに発せられてはならないと思うんです。わたくしなんて「腐女子」と今パソコンで打ち込むだけでも顔を赤らめてますもの・・・って、そんな話はどうでもいいんです。わたくしの「腐女子」論が聞きたい方は、飲みにも誘ってください。でも飲むならもっと楽しい話がしたいものです。

ああまた話がずれた。ええと、今回は久しぶりに本の紹介をしようと思ったんですよ。しかも結構今時の!(わたくしは基本的には児童文学が専門、あと古典とか、いわゆる「新書」じゃない本が好きです。最近では意識して新書を読むようにしてますが)。去年映画化もされたので、ご存知の方も多いかな、と思うんですが、伊坂幸太郎『アヒルと鴨のコインロッカー』です。伊坂幸太郎は「春樹チルドレン」(村上春樹に影響を受けている作家)の一人という認識しかなかったのですが、去年、学科の先輩に強烈に勧められまして、ようやく先日手に取ったんですね。うん、予想以上におもしろかったです。売れるだけあります。ていうか素直なわたくしはすっかり騙されました。トリックはネタバレになってしまうので言いませんが。

主人公の椎名君は大学に通うため、一人暮らしを始めるのですが、引越し早々、隣の部屋のカワサキ君(痩身・黒

ずくめ)に「本屋を襲わないか?」と持ちかけられるのです。というか「本屋を襲うから共犯になってくれ」で強制されるのです。目的は一冊の広辞苑。「買った広辞苑じゃなくて、盗んだ広辞苑を、同棲していた彼女を失って塞ぎ込んでいる隣人の留学生にプレゼントしたい」という滅茶苦茶な理屈で。「滅茶苦茶だ」と言おうもんならカワサキはこう返すでしょう。「世の中は滅茶苦茶。そうだろう?」というのが「現在」。話は、「現在」と、カワサキの過去(「2年前」)を一章ごとに交代で進みます。最初はよく分かんないです。コインロッカーは元より、アヒルも鴨もなかなか出てこないし、でも2年前のカワサキはやたら格好いいし、謎の美女は出てくるし。それでも読み進めていくと「おおお!」てなって最初から読み返すこと必至です。伊坂幸太郎の作品は、後ろから読んじゃダメです。ミステリーの顔はしてないのにトリックがあります。言葉の選び方もうまいし、結末の付け方もうまいし、別作品『重力ピエロ』では、その文章テクニク(セリフをいくつか続けて同じ文字数にしたり)もうまいと思ったし・・・一言で言うと「うまい」作家ですね。読みやすいからでしょうか、今は漫画誌である『モーニング』上で連載もしています。感情移入してぼろぼろ泣けるわけではな

い、むしろ最後まで登場人物が何を考えているか分からないドライなところもあるのに、どこかせつなくて、読後感は悪くない。多少うまさすぎる感もありますが、これから一気に読みしたいな、と思わされる作家でした。

(高橋 舞)

つとがわ 編集後記

このあたりでは、カラスノエンドウが咲き始めています。完熟した実が黒くなることから、そんな名前になっているのだそうですが、咲き始めたエンドウの花を小さくしたような赤紫色の花は、緑のつるの葉っぱの中で目を引く存在になっています。この近くで珍しいのは、津門側沿いの空き地にある“妹分”のスズメノエンドウです。赤紫色の花は更にこぶりで、小さなさやに必ず実が2個入っていて、完熟した実が“スズメ色”なのでその名前になりました(だと思います)。

幼稚園から歩いて15分くらいの、伏原町にある幼稚園の畑では、冬を越した野菜が伸びて(臺がたって)“菜の花”を咲かせています。みずなとちんげんさいは黄色、さくらじまだいこんは伸び具合も大胆で、白っぽい“菜の花”、きくのはつぼみが膨らみはじめています。野菜を食べて、花も楽しんで、そうして咲いた花をかじているのを、子どもたちはびっくりして見えています。

(K)

幼稚園の桜も満開になりました。私の家のマンションの公園の桜も満開で、その横を自転車で通り過ぎる瞬間が好きです。朝も、夜の夜桜を眺めながらも~どちらもとってもステキです。寒すぎず、暑すぎず、春風がとても心地よくて私の大好きな季節です。

(N)

春休み、淡路島のワークキャンプに行きました。海でワカメやめかぶをとり、畦道でつくしやのびるを獲って、それが夕食に変身し

とれたての食材をすぐに食べられるなんてすごげたく と思いながら自然と過ごす1泊2日を大満喫しました!!

(Y)

田んぼがピンク色に染まり、あぜ道も水色に。ホトケノザやヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリが咲き乱れる春がやってきました。自然が作り出す優しい色に思わずほっぺが緩む、そんないい季節がやってきたんですね。先日は夕焼けに照らされる桜も素敵でした。同じ景色と一緒にみて感激できる人がいる、そんななんでもないような事をこれからも大事にしていこう。そして新しく出会う子ども達ともいろんな事を一緒に感じていきたいなあと思っています。

(I)

2008年3月29日、山手幹線西宮霞町から芦屋翠ヶ丘町開通!

昨年4月8日芦屋の三条町あたりで一気に神戸市内へ入れるようになり、そして一年後あの夙川カトリック教会のところ知る人ぞ知るとんでもない道路が解決した。最高の気分。いろいろ「震災後」もからむ曰くある道路なのであまり喜ぶのもいかがかと思いつつ嬉しい。どうしてって、我が孫の保育所が岡本手前の山手幹線沿いにあるもので

春です。新しいスタートをする方々におめでとう!がんばってね。

(J)